

岩井の祭礼は
8月20日

華麗な彫刻の屋台と
お囃子の競演に、心が自然と踊る

毎年恒例の岩井地区祭礼が八月二十日(土)に開催されます。今年は、富楽里駐車場と高崎(浜下)駐車場に集合し、お囃子の競演を繰り広げます。
なお、富楽里駐車場に集まる屋台からは、菓子投げを行ないます。



(昨年の祭礼から)

- 集合場所と時間
- 富楽里駐車場 6台
16時から1時間程度
 - 高崎(浜下)駐車場 6台
18時から2時間程度

読者の投稿コーナー

熱中リレー

ただいま、熱中しています。
検儀谷在住 嶋田ヒトヲさん(73歳)
今回は、佐藤ヨネさんにリレー

私は、元々バレーボールの選手で、若いころはママさんバレーのコーチを長年していました。と言うことで、私が今、熱中しているのがソフトバレーボールです。千葉県の軽スポーツ体育指導員をしていた関係で、平成二年前から始めて、もう二〇年以上になりました。ソフトバレーの仲間は今現在五〇から七〇歳代後半までで、一七名が毎週木・日曜日の午後七時三〇分からふれあいスポーツセンターで汗を流しています。私が現在まで続けているソフトバレーボールの motto は、「先ず楽しんで、親睦を深め、そして、いつまでも健康であること」です。



(前列右から三人目が嶋田さん、女性に囲まれて汗を流し、健康そのものです)

◆伏姫と八房のたわ言◆

毎年七月一日は富士山の山開きです。二年前まで、毎年と言っていいほどルートを変えて富士登山に挑戦していましたが、腰を痛めてから「無沙汰しています。今では、富士山も「山ガール」と言って、ファッショナブルな服装をして登山する若い女性が増えてきたということです。山頂では、原宿かと思うくらいに、若い女性で込み合っているようです。それを聞いて、今年は久々に挑戦してみようかと思っています。

地域づくり支援員

我が家のペット、ミックス犬を紹介

高崎 近藤勝男さん



(ケントは、びわの収穫時期にはいつも一緒に来ます)

オスだと思って甥っ子の名前をとってケントという名をつけたらメスでした。ケントは、6年前、甥が君津の農道でカラスに食われそうになっていたところを拾ってきて、それをもらって飼っています。三年前にはイノシシのウリボウを捕まえて来て、びわの収穫時期にはいつも一緒に来ます。私が混じっているのではないかと思っています。私がびわ山に行く時には、呼ばなくても軽トラックの荷台にひょこんと乗って、一緒に来ます。

わがふるさと富山⑩

今では国内を問わず、世界の各国の観光地に簡単に旅行できる時代となりました。日本の観光地によく土産に売られているのが、「通行手形」と版を押された木の札です。通行手形は今で言うならば、外国に旅行するときのパスポートでしょう。か、明治八年ごろまで使われていた「往来手形」は、こんなに簡単な物ではありませんでした。実際の「往来手形」は次のとおりの文面でした。



(往来手形は今で言うならばパスポート)の発行する往来切手を用意しなければならぬのが普通でした。(次号に続く)

往來一札(おうらいいつさつ)之事
「此もの儀 江戸豊岸嶋東湊町一丁目太田屋安五郎並妻さんと申者にて両人心願に付諸國神社仏閣拜礼に罷出(まかりい

災害時に自分たちができることは何か ～自主防災講座に約一〇〇人が参加する～

ふらっとが主催する自主防災講座が、六月一八日に富山公民館であり、東日本大震災の影響で関心が高いせいもあり、約一〇〇人が参加しました。

当日は、石井裕市長が訪れ、市の津波対策を兼ねたあいさつをいただき、その後、中原市災害ボランティアネットワークの白尾克伸氏の講演や、緊急時の非常食炊き出しや新聞紙でスリッパづくり・サラダオイルランプづくりなどを行ない、災害時に自分たちができることは何か、考えさせられる一日でした。(詳細は二ページに掲載)

自分たちの家を地図上で確認

実践的な避難を考える

講演はワークショップ(座談会形式の会議)で行われ、その前にリラックスをするために参加者でマスをゲームを行ない、終始和やかなムードでわかりやすい講演が進みました。

ワークショップは、自分たちの家を地図上で確認し、実グループごとの発表



あいさつする
石井裕市長

あいさつ要旨

一〇メートルの津波を想定市の津波対策は、過去の元禄地震を参考にしているのではなく、東海・東南海地震発生が予想された時、南房総市の想定する津波の高さ三メートルを受けて、その二倍以上の一〇メートルの高さを津波を想定して行ないます。そして、三〇〇メートルの範囲で海抜一〇メートル以上の避難する場所があるか、それらをチェックして市の防災計画を見直していきます。



(ワークショップを前にマスをゲームで緊張をほぐす)

私の考える地域づくり



平久里下在住
服部 礼士

梅雨のさなか、平久里の山道を運転しながら考えました。地域づくりと料理づくりの共通点はなんだろう? 料理づくりは素材の味を活かしながら、いかにおいしく食べられるように仕上げるかが基本です。それに対して、地域づくりは素材を理解することから始まり、完成品のイメージや作り方についてみんなと話し合うことが大切です。完成までは時間もかかりますし、出来あがったものはイメージと一致しないかもしれません。

実践的に避難をどうすればいいのか考えさせられるため、参加者からは今後も実施していただきたいとの声が上がりました。

トミー協働つうしん
改め



ふらっと通信

平成23年7月

発行:南房総市 富山地域づくり協議会「ふらっと」
企画編集:地域づくり支援員(三橋・原)
〒299-2292 南房総市久枝257番地(南房総市富山支所内)
メールアドレス:tomiyamachiikidukuri@sunny.ocn.ne.jp

TEL 0470-57-3799
FAX 0470-57-3002

第12号

あるとき突然、携帯電話からテレビから緊急地震速報が流れてきました。あなたはどうしますか、何をしますか。緊急時に備えてどんな行動をしたら一番安全か、緊急時持出袋の準備は、家族が集合する避難場所など、日頃から家族で話し合っておきましょう。

地域住民の防災意識の向上と 災害に強いまちづくり

自主防災講座6/18

講演 3分間・3時間・3日間の気付き



(参加者に質問をする講師の白尾氏)

自主防災講座では、緊急時の際にどのような行動をしたら安全か皆さんで考えました。地震や津波など緊急が発生した場所、時間帯などを考えると、答えはいくつもあり

とつさの判断が生死を分けることがあります。自分なりの答えを出して、行動することが大切です。①地震がおきて3分間、あなたは何をしますか

- ②津波の危険に備えてあなたはどこに避難しますか
- ③地震がおきて3時間、あなたは何をしますか
- ④地震がおきて避難所に向かいます。必要なものは何ですか
- ⑤自身がおきて3日間、あなたは何をしますか

など、「災害が発生したら自分は何をすべきか」をワークショップ形式で考えてみました。

図上訓練で参加者自身の避難場所を確認する

(各々の避難場所を確認する)



レジ袋を水の運搬や緊急トイレなどに活用

講演に続き体験では、避難所では、スリッパが不足し、裸足での生活が余儀なくされることから、即席で新聞紙を利用したスリッパづくりを体験しました。また、停電時に役に立つサラダオイルランプづくりを行ないました。最後はレジ袋で、水の運搬・緊急トイレ・前掛けなど、アイデア次第で幾通りも活用できることを体験しました。

泥水でもご飯が炊けるハイゼックス炊飯を体験

非常食の試食では、泥水でも

(ハイゼックス炊飯を試食する)



ご飯が炊けるハイゼックス炊飯を体験、ご飯とたくわん程度しか提供しませんでした。参加者の皆さんは「なかなかいける」と好評でした。当初、関心が薄かった参加者も何かいま参加して、講座が進むにつれて、自らが積極的に参加していたのが印象に残りました。

自分たちの手で自分たちの地域をきれいに 親水公園の清掃作業に約一五人が参加

自分たちの手で自分たちの地域をきれいにしようと、「ふらっと」が地元住民に呼びかけた岩井川親水公園周辺の清掃作業が、六月二五日に行なわれました。

当日は、「ふらっと」のスタッフと地元久枝・市部区民併せて一五人が草刈や堆積土砂の除去・公園ベンチのペンキ塗りなどを行ないました。親水公園及び周辺の遊歩道は、二時間程度できれいになり、朝夕の散歩や夕涼みに利用しやすくなりました。



(炎天下の中、コンクリートの隙間からスキの根を取り出す作業をする)



「ふらっと」では、地域の方々と一緒に活動する道路・公園等の美化清掃活動を行なっています。

活動の際には多くの皆さんの参加をお願いいたします



(水分を含んだ土は重く、見た目より量が多く、大変な作業です)

東日本大震災被災地へ支援物資の提供をお願いします

ふらっと事務局を担当している地域づくり支援員の三橋と原は、6月に宮城県登米市にあるRQ市民災害救援センター東北現地本部へ、災害ボランティア研修に参加してきました。

本部のある旧鱒淵小体育館には、全国からの救援物資が積まれていました。東北の各被災地では、本格的な夏に向かって、Tシャツや下着・身の回りの日用品・食品等の提供、また、仮設住宅に入らず自ら住居を見つけて入っている方のための家電の提供を希望しています。そこで、富山地区のみなさんに物資の提供をお願いいたします。提供をお願いする物資は下記のとおりです。提供いただいた物資は、NPO法人千葉自然学校を通して東北の各被災地に届けられます。

物資の提供できる方は、電話57-3799ふらっと事務局までご連絡ください。

支援物資は新品に限ります

- ・寝具 タオルケット
- ・衣類 Tシャツ/下着(男女)/靴下
- ・日用品 ヘアドライヤー(中古可)
トイレットペーパー/Boxティッシュ
キッチンタオル/シャンプー
- ・食料品 米/水(ペットボトル)/南三陸町は水道が復旧していません
- ・野菜・レトルト食品・缶詰・カップ麺
- ・砂糖・塩・しょうゆ・味噌・だしの素

支援物資は新品に限ります

震災から4カ月が過ぎ、仮設住宅も急ピッチに建設が進んでいます。仮設住宅に入居すると家電6点(テレビ・洗濯機・冷蔵庫・エアコン・電子レンジ・炊飯器)が付いてくるそうです。しかし、何らかの事情で行政が認める仮設住宅に入居することをせずに、自ら住居を見つけて入っている方には、これらの家電は全くありません。これらの家電(新品)を提供できる方もご連絡ください。

皆様のご協力をお願いいたします。